

令和4年度 学校経営報告

- I 今年度の教育活動の取組の結果と自己評価 (○) と来年度に向けた課題と対応策 (●)
- II 今年度重点目標の学校経営計画における数値目標と今年度の達成状況 (表)

1 学習指導の充実

(1) 基礎学力の確実に身に付けさせる指導を徹底する。

- 習熟度別授業や少人数編成授業については、計画どおり実施した。朝学習は、全学年を対象に継続して実施した。試験前を中心に、各教科が補習講座等を開き、生徒の学力定着に努めた。
- 大学進学を希望する生徒が増加しているため、令和6年度入学生より英語「論理・表現Ⅲ」を3年次に履修できるようカリキュラムの修正を行った。
- 朝学習について、Classi の活用や基礎力診断テストとの連携を進めることで、より一層、基礎学力の定着を図る。

(2) 日本語指導の充実し、在京外国人生徒の学習活動や学校生活を支援する。

- 在京外国人生徒向けの日本語指導の充実については、教員向け研修を10月に1回実施し、教員の指導力向上を図った。また、取り出し授業などきめ細かい日本語指導の充実の結果、日本語能力試験(JLPT)のN1に4名、N2に13名、N3に4名の合格者を出した。
- 在京外個人生徒向けの日本語指導については、今年度は特別な教育課程の申請ができなかった。次年度の申請に向けて準備を進めていく必要がある。

(3) 新学習指導要領への対応を確実に行う。

- ユニバーサルデザインについては、教室掲示を整理した。
- 観点別評価については、各教科で基準を作成して実施することができた。
- 観点別評価について、今年度の実施状況から課題の洗い出しを行い、来年度の改善につなげていく必要がある。
- 探究活動への取組を組織的に支援する体制ができなかった。予算面も含め、探究活動が活発になるよう組織的な体制を整備していく必要がある。
- ICT機器の活用は定着しつつあるが、一人1台端末については、一部の授業でしか活用できていない。一人1台端末活用の推進が課題である。

(4) 組織的な授業研究を行い、授業改善の取組を推進する。

- 「学びの基盤」プロジェクト研究協力校、若手教員研修や年次研修における研究授業は年間28回、研究協議会を6回実施した。他の教員の授業見学については95%の教員が実施した。ほぼすべての教員が、授業に対する工夫や改善が行っており、全体として授業力が向上していると感じている。組織的な授業研究の取組ができた。
- 次年度は、学びの基盤プロジェクト事業の最終年であるため、今年度の取組をさらに発展させるとともに、事業終了後の授業研究の在り方について検討を進める必要がある。

(5) 社会で必要とされる力を身に付けさせる学習を推進する。

- 1年生対象の「人間と社会」については、「かつしかRUNフェスタ」のボランティア活動に参加して、地域の皆様から好評を得た。
- がん教育、デートDV防止、薬物乱用防止、交通安全教室、認知症理解、模擬裁判、年金セミナーなど、外部との連携による教育活動を実施した。
- 今後も外部連携を積極的に取り入れて、生徒がより広い視野から学習活動に取り組めるよう支援していく必要がある。

項 目	項目	4年度実績
(1) 全員進級、全員卒業（進級率100%、卒業率100%）を目指す。	進級率 卒業率	96.3% 99.1%
(2) 研究授業及び研究協議会を年間10回以上実施する。	研究授業 研究協議会	28回 6回
(3) 全教員が、他の教員の授業見学を年2回以上行う。	授業見学率	95%
(4) 学校評価アンケートで「本校の授業は全体を通じてわかりやすく工夫されている」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒 保護者 教員	87.5% 82.2% 100%

2 進路指導

(1) 高い志をはぐくみ、目標に向かって努力する生徒を支援する進路指導を推進する。

- 進路指導部及び学級担任は、生徒一人一人の進路希望を実現するために、最大限の努力をしている。特に3学年は、コロナ対策のため1・2年時の取組を十分にできない部分があったが、粘り強く指導、支援を行い、進路決定率93.3%を達成した。
- 特に課題のある生徒や支援が必要な生徒については、進路指導部と学年の連携、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの連携をより緊密に行うことで、生徒の進路選択をより良く支援できる組織体制をつくることができる。

(2) 3年間を見通したキャリア教育体制をより一層充実する。

- 望ましい勤労観、職業観の育成については、キャリア教育年間計画に基づいて、ほぼ計画とおりに実施することができた。
- 1学年は、進路講話、職業別ガイダンス、分野別説明会、各種模擬試験等の進路行事を実施した。2学年は、上級学校・職場訪問、進路講演会、個別進路面接や志望理由書作成指導、各種模擬試験等の進路行事を実施した。3学年は、就職希望者や進学希望者に対する模擬面接指導を大学、専門学校、ハローワーク等と連携して実施した。
- 進路情報の提供については、本校独自の進路指導資料「進路の手引き」を刊行し、進路意識を高める指導を行った。
- 大学進学希望者が増加している中で、大学進学に向けたキャリア教育をどのように行っていくか、日程や方法、内容等について再検討する必要がある。

(3) 大学進学、看護系専門学校、公務員就職等を希望する生徒への支援体制を強化する。

- 大学へ進学した者は、74名であった。うち64名は、指定校推薦、一般・公募推薦、総合型選抜（AO入試）、スポーツ推薦等の推薦による進学であった。学力試験による大学受験をした者は25名であり、うち10名が大学進学を決めている。
- 就職した生徒は、12名であった。うち1名が公務員となった。
- 在京担当教員を進路指導部に配置し、志望校選定、出願指導等においてきめ細かい指導を行った。在京外国人生徒支援委員会を中心に、学年担任と進路指導部が連携して進路指導の充実を図った。
- 大学進学希望者が増加している中で、進学希望者への支援は、一部の献身的な教員の活動にとどまり、組織として支援する体制をつくることができなかつた。次年度は、大学進学希望者に対する組織的な支援体制を構築していくことが課題である。

項 目	項目	4年度実績
(1) 卒業時の進路決定率を90%以上とする。	進路決定率	93.3%

(2) 学校評価アンケートで「進路学習や進路指導が進路選択の参考になった」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒 保護者 教員	89.0% 86.6% 82.5%
(3) 4月当初に大学・短大へ進学を希望する生徒の大学・短大への進学率を100%とする。	4年制大学進学者 一般受検者 受験準備者	74人 25人 10人

3 生活指導

(1) 組織的な生活指導を推進する。

- いじめや暴力等を断固許さない指導の徹底については、いじめに関するアンケート調査を年間3回実施し、必要に応じて面談を行って早期発見に努めた。
- 問題行動に対する特別指導については、16件28名であった。コロナ前の水準とほぼ同じとなった。
- 頭ごなしに叱る指導を止め、理解して納得させる指導を行う取組を進め、ほぼ定着してきた。
- 指導に従わない生徒に対して、生徒を支援する視点から、個に応じた指導目標を組織的に設定し、生徒の状況に応じた支援・指導を行うことが大切である。

(2) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底する。

- ガイドラインに則り、感染拡大防止対策を徹底した。年間の感染者数は、234名であった。
- 次年度当初は、マスクの着用が個人判断となることへの対応が必要となる。また、引き続き、ガイドラインに則り、健康チェック、手洗い、消毒、換気などの基礎的感染症対策を徹底して必要がある。

(3) 規則正しく、安全安心な学校生活を送るための指導を推進する。

- 年間の延べ遅刻数は、11,426回（一人平均17回）であった。前年度の7,324回から大きく増加している。遅刻指導は、日常のホームルーム担任による指導を基礎として、学年と生徒指導部が連携して粘り強い指導を行った。また、スクールカウンセラーの面談を活用し、睡眠指導を行った生徒に改善が見られた。
- 引き続き組織的、計画的に遅刻指導を行っていく必要がある。

(4) 危険を予測し、回避するための指導を徹底する。

- 安全教育は、関係機関と連携し、学年別に交通安全教室を実施した。また、1年生対象に携帯電話の利用に関するセーフティ教室を実施した。
- 交通安全指導は、運転マナーについて学年集会等による指導を繰り返し行った。
- 次年度も、積極的に警察署や消防署等の関係諸機関と連携する。訓練や講話を組織的、計画的に実施できるよう準備を進める。

(5) 生徒の心を育てるための指導や支援を充実する。

- 毎朝の校門での挨拶運動を、年間を通じて行った。また、授業開始時と終了時の挨拶については、各教科担当の指導の徹底により、ほぼすべての授業において励行され、授業規律の確立と学習に集中する姿勢を育むことができた。
- 面談については、担任による年間5回の面談週間の実施やスクールカウンセラー(SC)及びユースソーシャルワーカー(YSW)の活用により、カウンセリング体制の充実を図ることができた。
- SCとYSWを活用した支援体制検証事業の協力校として、SCが週2日配置となった。SCへの相談件数が増加し、SCとYSWの連携により生徒への支援を円滑に行った事例が見られた。
- 次年度も、SCとYSWを活用した支援体制検証事業の協力校として、SCが週2日配置となる。また、特別支援心理士派遣事業により月2回程度、特別支援心理士の派遣を受けること

ができる。これらの専門家を活用して、個に応じた生徒支援をより一層推進していくことができる。

(6) 医療的ケアが必要な生徒を支援する校内体制をより一層推進する。

- 医療的ケアが必要な生徒2名を、無事、卒業させることができた。
- 次年度、医療的ケアが必要な生徒の入学はないが、支援が必要な生徒に対して必要な支援を組織的に行う体制は維持していく必要がある。

項 目	項目	4年度実績
(1) 学校評価アンケートで「教員は相談に親身に対応している」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒 保護者 教員	92.7% 90.7% 95.0%
(2) 学校評価アンケートで「時間を守ることに積極的に取り組んでいる」に否定的な回答をする生徒の割合を10%以下とする。	生徒 保護者 教員	11.4% 13.7% 10.0%
(3) 学校評価アンケートで「身だしなみに関するルールを守っている」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒 保護者 教員	91.5% 78.9% 90.0%
(4) 生徒の遅刻総数4500以下を目指す。	遅刻総数 一人当たり	11,426回 17.0回

4 特別活動、部活動、その他

(1) 全校集会、学年集会において、整列や話を聞く態度についての指導を徹底する。

(2) 体育祭、文化祭(南葛祭)等の学校行事を充実させる。

- 特別活動は、学校全体での体育祭や文化祭を3年ぶりに実施することができた。感染対策を徹底しながらの開催ではあったが、生徒の創意と工夫により、学校が一つになる充実した行事となった。

(3) 生徒会活動を活性化し、生徒の意見を代表し、課題解決に向けて活動するよう指導する。

- 生徒会活動は、生徒の要望を集約や三年生を送る会の運営等、自主的な運営を進めた。

(4) ホームルーム活動、委員会活動を活性化し、身の回りの課題を生徒自身の力で解決する態度を養う。

- ホームルーム活動は、年間計画を立て計画的に行うことができた。
- 委員会活動は、例年通り行っていたが、活動が明確でない委員会もあった。前後期の委員の入れ替えに伴い、活動が停滞する委員会があった。
- 委員会活動については、年間計画を作成し、目標を明確して活動する必要がある。行事的活動を核に企画運営の準備を生徒に考えさせ、自主的運営ができるよう支援したい。

(5) 部活動を推進し、目標に向かって努力する心をはぐくむ。

- 部活動加入率は54.0%であった。
- コロナ対策の影響から、部活動加入率が低下している。部活動の活性化が課題である。

(6) 部活動、委員会活動、ホームルーム活動を通じたボランティアや地域貢献を推進する。

- 地域と連携したボランティア活動は、年度の後半に実施することができた。板橋区赤羽ロードレース補助員(生徒会)、葛飾ランフェスタ運営補助員(1学年)としてボランティア参加し、好評を得た。
- 次年度は、地域ボランティア活動への参加を積極的に進め、生徒の自己有用感、自己肯定感をより一層高めていきたい。

(7) 心身の健康づくり

- 保健室の利用状況については、利用延べ生徒数が約753名と対前年度(953名)比約2

0%の減少となった。

- 保健健康教育は、保健体育科の授業や部活動等において体力の向上を図るとともに、デートDV防止教室、がん教育、薬物乱用防止教室を実施した。
- 今年度は、退学6名、転学14名であった。原級留め置きは3名であり、うち1名が転学した。様々な理由から登校が困難となる例が多かった。欠席数の超過については、コロナ禍であることから一定の配慮を行って支援した。また、SCやYSWと連携した相談による支援も実施した。
- 次年度は、不登校の未然防止や不登校生徒への支援を組織的に行うことが課題である。特別支援委員会を中心に、SCやYSWとの連携のもとに、必要に応じて外部連携も進めながら、必要な支援を行っていく。

項 目	項目	4年度実績
(1) 生徒の部活動加入率 65%以上を達成する。	加入率	54.0%
(2) 学校評価アンケートで「学校生活が楽しく充実している」とする生徒の割合を 90%以上とする。	生徒	93.2%
	保護者	91.5%
	教員	62.5%
(3) 学校評価アンケートで「今年度の体育祭が満足できた」とする生徒の割合を 85%以上とする。	生徒	90.7%
	保護者	77.8%
	教員	97.5%
(4) 学校評価アンケートで「今年度の南葛祭が満足できた」とする生徒の割合を 85%以上とする。	生徒	88.6%
	保護者	76.1%
	教員	95.0%
(5) 学校評価アンケートで「本校での生徒会活動は充実している」とする生徒の割合を 80%以上とする。	生徒	80.8%
	保護者	76.9%
	教員	67.5%

5 学校運営

(1) 校内の整理整頓を徹底して行い、学習環境、執務環境の美化、整備を進める。

- 安全衛生委員会を中心に、更衣室の湿気やロッカーの充足、夏場の蚊の駆除など、適宜、職場環境の改善に取り組んだ。
- 5S運動を呼びかけ整理・整頓を行ったが、不要物を撤去しきれていない。
- 不要物の廃棄を計画的に進めていく必要がある。また、什器類については、中長期計画を作成し、計画的な更新を進めていく。

(2) 組織的、自律的な学校運営を推進する。

- 企画調整会議を年間32回実施して、組織的な学校運営を行った。
- 学校運営の成果と課題の把握について、学校運営連絡協議会の協議委員による学校評価や教員、生徒、保護者等による学校評価等における意見を集計分析し、学校運営の改善に資することができた。

(3) 経営企画室の学校経営への参画を推進する。

- 自律経営予算については、それぞれの分掌、学年、教科、委員会等が、年間計画に基づき一年間の必要な物品等をすべて申請して編成することとし、これまで行っていた校内補正予算を廃止した。これにより、学校経営計画に基づく校長の経営判断による予算執行が容易となり、学校運営の機動性が高まった。

(4) 服務事故防止研修を実施し、服務事故の防止と体罰の根絶に努める。

- 年間3回の服務事故防止研修を実施し、服務事故と体罰の根絶を目指したが、残念ながら、

個人情報の一時紛失事故1件が起きてしまった。

- 服務事故防止研修や体罰根絶の取組を継続して行うとともに、再発防止についての取組を、年間をとおして繰り返し実施していく。

(5) 授業公開、保護者会、学校行事等の公開を通じて、開かれた学校運営を推進する。

- 年間2回の授業公開、全学年合計で年間5回の保護者会等を実施して、開かれた学校運営を推進した。学校行事については、コロナ感染対策から保護者や地域への公開はできなかった。

(6) 大規模災害への備えや防災対策について、組織的な体制を整備する。

- 防災教育は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で4回実施した。消防署と連携して、起震車体験や初期消火訓練を含めた防災避難訓練を実施できた。
- 次年度も、積極的に警察署や消防署等の関係諸機関と連携する。訓練や教室を組織的、計画的に実施できるよう準備を進める。

(7) ライフワークバランスを推進する。勤務時間外在校時間の短縮に努め計画的な休暇の取得を促す。

- 職員の在校時間の管理を適正に行い、長時間勤務の是正に努めた。
- 教員の年休取得日数は一人平均17.6日、夏休の取得率は92.9%であった。経営企画室の年休取得日数は一人平均8.4日、夏休取得率は100%であった。

(8) 生徒募集・広報活動に組織的、計画的に取り組む。

- 生徒募集は、学校説明会3回、個別相談会2回、学校見学会26回（夏季休業中18回、9月3回、1月2回、3月3回）を実施した。また、外部説明会に5回参加した。本校に直接来校した中学生と保護者は、前年度比約6%減の計1,810名であった。また、近隣学習塾訪問を実施した。
- 例年に加え、生徒募集チラシの作成（10月）と中学校への配布（10月）及び新聞折り込み広告での配布（11月）を行った。学校周辺の駅でのポスター掲示、広報スタンドを活用した学校案内の配布（12月）も行った。また、推薦に基づく選抜終了後、ホームページへ誘導するチラシの作成と周辺区の中学校への配布（1月）、学力前期選抜終了後、再度、ホームページへ誘導するチラシの作成と周辺区の中学校への配布（2月）を行った。これらの活動により、定員を満たす生徒数を確保できた。
- 周辺区の中学校卒業生数の減少、授業料無償化による私学志向、広域通信制への進学者増等の影響により、少ない生徒を奪い合う状況が続いている。生徒にとって魅力のある学校づくりを推進するとともに、広報活動をより一層充実させていく必要がある。

項 目	項目	4年度実績
(1) 推薦4.00倍以上、学力前期1.40倍以上を目標とする。	推薦 前期 後期	2.62倍 1.12倍 2.00倍
(2) 学校公開、学校説明会、個別相談会、学校見学会での来校中学生の実数600名以上、のべ1000名以上を目指す。	中学生数 のべ人数	833人 1,810人
(3) 全教員平均で夏休取得率100%、年休取得15日以上を目指す。	夏休 年休	92.9% 17.5日